

吉田統括監だより

第12号

町民の皆様こんにちは。例年になく遅い桜の開花でスタートした新年度。若干気温の低い日が続き、体調を崩される方が多かったと聞き及んでおりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか？

さて、新年度に入り、当町の『未来づくり』がいよいよ本格始動しました。

本号では、ヨソ者個性派による未来づくり専門集団の船出にあたり、私の想いをお伝えいたします。

1 ヨソ者個性派による『未来』づくり専門集団

“錦江町 まち・ひと・『MIRAI』創生協議会 事務局”が本格始動しました!!

県内有数の少子・高齢化に苦しむ当町の『厳しい現実』を逆手にとり、子や孫に希望あふれる『未来』を創り、繋ぐために《錦江町まち・ひと・『MIRAI』創生協議会》を発足させ、当町地方創生の総合戦略総称である《錦江町未来づくりプロジェクト》を役場と共に担うことは既にお伝えしているところです。

その、『未来づくりプロジェクト』の実践集団として位置づけられた『事務局』開設では、私の役職である『地方創生担当統括監』のまま協議会の専務理事（事務局長）に就き、組織作りや人材採用をゼロから準備しました。

言わば、町の未来づくりに民間目線と行政目線両方を持ち込むという、これまでにないやり方です。なぜならば、現状がこれまでの日本では生じたことがない社会状態であり、これまでにない状態にはこれまでにない考え方ややり方で、合理的に対応する必要があると考えたからです。

なお、町民さんや行政、移住者、町外支援者と共に『子や孫の為に未来を創り、繋げる』という当会の理念に共感し、海外や全国各地から集結したのは20代から40代までの個性派達でした。

- ・ アフリカで日本人ボランティアと地元住民との地域おこし活動支援に汗を流していた者
- ・ 日本有数の過疎地域で町内外に対し高度な情報戦を展開し、町民に誇りや希望を取り戻させた者
- ・ フィリピンで販路開拓すべくたった一人で奮闘してきた者
- ・ 雪深い日本海側で自らが広告塔となり《人・物・地域》の価値向上ストーリーづくりに励んでいた者



2 今年度より『錦江町未来づくり委員会』が本格的にスタートします。

現在8人の町民さんのご協力を得ながら実証実験として進めている『錦江町版百人委員会（仮称）』ですが、正式に『錦江町未来づくり委員会』と呼称し、当協議会が募集から運営まで一貫して担当することとなりました。

ちなみに、町民さん向けの委員公募については、6月の実証実験終了後に、効果検証と改善を行った上で8月より公募を開始し、10月より正式にスタートする予定です。

なお、役場職員を対象とした『未来づくり委員会』は一足先に6月よりスタートします。

町民さんや役場職員の『熱量向上＝地域活性化を自分のこととして捉え、共感し、協働すること』こそ、錦江町の未来を切り開く『最高の力』であると私は強く確信しております。

この機に多くの町民さんが『厳しい過疎状態を逆手に取った、子や孫に繋ぐ未来づくり』に自分事として共感され、私たちや役場と共に積極的に協働くださることを心から願っております。